

研究・調査報告書

報告書番号	担当
355	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and gastric cancer risk in the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) cohort. The European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) cohort における飲酒と胃癌の関連の検討	
執筆者	
Duell EJ, Travier N, Lujan-Barroso L, Clavel-Chapelon F, Boutron-Ruault MC, Morois S, Palli D, Krogh V, Panico S, Tumino R, Sacerdote C, Quiros JR, Sanchez-Cantalejo E, Navarro C, Gurrea AB, Dorronsoro M, Khaw KT, Allen NE, Key TJ, Bueno-de-Mesquita HB, Ros MM, Numans ME, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2011;94:1266-75.	
キーワード	
飲酒、胃がん、EPIC cohort	
要 旨	
背景： 胃癌は世界で 2 番目の癌死亡の原因である。飲酒と胃癌の関連は今までいくつもの疫学研究で調査されてきたが、一致した結果が得られていない。	
目的： 飲酒と胃癌との関連を検討する。	
方法： 初発の原発性胃腺癌 444 例を含む the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) cohort を用いて、前向きに検討を行った。Cox 比例ハザードモデルを用いて、エタノールの一日当たり摂取量 g/日に対する胃癌のリスクを、喫煙状況、解剖学的サブサイト (噴門、非噴門)、病理学的サブタイプ (び慢性、腸管性) を調整して算出した。ベースラインのヘリコバクターピロリの感染状況を更に調整した。	
結果： ベースライン時のごく少量の飲酒群 (0.1-4.9g/日) と比較して、高飲酒 (60g/日以上) では、胃癌のリスクと正の関連があり (ハザード比: 1.65、95%信頼区間: 1.06-2.58)、一方低飲酒群 (60g/日未満) では関連を認めなかった。アルコールの種類別に分析した場合、30g/日以上のビールの飲酒と正の関連を認めたが (ハザード比: 1.75、95%信頼区間: 1.13-2.73)、ワイン、リキュール類では関連を認めなかった。関連は主に男性の高飲酒群で、非噴門サブサイト、腸管性サブタイプに限って認められた。胃癌リスクについて、統計学的に有意な線状の量反応関係は認めなかった。	
結論： EPIC コホートでは、ベースライン時の高飲酒 (低、中等度ではなく) (主にビールによる) は、男性における腸管性サブタイプの非噴門型胃癌と関連を認めた。	